

広島大学第27回東京イブニングセミナー

- 日時: 2009年11月13日(金) 18:00 ~ 20:30 (受付 17:30~)
- 場所: 東京都港区芝浦3-3-6 キャンパス・イノベーションセンター(下図参照:JR田町駅 芝浦口 徒歩1分)
- 費用: 講演会・無料、交流会・2,000円(当日支払い)
- 主催: 広島大学(社会連携推進機構, 国際協力研究科)

■講演プログラム

1. 18:00~18:15 講師紹介及び国際協力研究科の紹介
2. 18:15~19:15 講演

(1)アジア環境シミュレーター:環境研究・教育プラットフォームの構築

山下 隆男 (国際協力研究科 教授)

<概要> 国境を越えて解決しなければならない社会、経済、環境問題が山積しています。19世紀はgold、20世紀は\$, 21世紀はCO2が取引の価値基準になる状況において、環境の価値を測る尺度、環境の変化を予測する道具は、地球環境変化への適応策を策定する上で極めて重要なものになっています。国際協力研究科では、国際環境協力に関する研究を最重要課題と位置付け、持続可能な地球社会の構築に向け、環境アセスメント、資源・エネルギー問題、低炭素社会形成に関する基礎研究と国際環境リーダー育成プログラムにより、国際環境協力学という新しいパラダイムに挑戦しています。特に、環境アセスメント研究グループでは、高精度の地域環境シミュレーションを目的とするアジア環境シミュレーターの開発を行っております。このシミュレーターは、大気、陸面(生物圏、生存圏、水圏)および海洋における水とエネルギーと炭酸ガスの輸送・変形課程が生物地球化学的な相互作用として考慮できる数値解析システムとして構築され、環境研究と環境教育の基盤ツールとして活用されています。本講演ではこのシミュレーターの紹介をします。

(2)気候変動問題と国際協力:太陽光発電と途上国の持続可能な発展

金子 慎治 (国際協力研究科 教授)

<概要> 地球環境問題の国際交渉では、一般に途上国の主張する歴史的経緯や開発の権利、不十分な対応能力が認められ、共通であるが差異のある責任を原則とした交渉が進められる。このことは気候変動に関する国際交渉においてますます顕著かつ重要な問題となってきた。2007年の第四次評価報告書では、温室効果ガスの排出量と大気中の濃度、気温上昇と気候変動、それらがもたらす影響について一定の科学的因果関係が明らかにされた。その結果、途上国の被害の甚大さや速やかに適応策が採られることの重要性に加えて、先進国のみが排出量を削減することの限界、すなわち途上国の排出量を抑制することの重要性が強調された。そのため、緩和策や適応策双方の途上国支援と引き換えに途上国の長期的な排出抑制に対するコミットメントを引き出すことが強く求められる。こうした状況を踏まえ本報告では、バングラデシュを事例として、気候変動対策と持続可能な発展に資する途上国支援のあり方の一例として、国際協力の



3. 19:25 ~ 20:30 交流会

- お申込み方法: 添付の「参加申込書」に所定の事項を記入頂き、FAXあるいはE-mailにて下記までお申込み下さい。(定員 100名)

申込み・問合せ先

広島大学東京オフィス
東京都港区芝浦3-3-6
キャンパスイノベーションセンター507号室

電話: 03-5440-9065
FAX: 03-5440-9117
E-mail: liaison-office@office.hiroshima-u.ac.jp

